



7月の園だより

2023年6月30日

ひかり認定こども園 ゆづり保育園

梅雨明けまであと少しとなりました。ジメジメとした蒸し暑い日が続いていますが、夏はもうすぐそこ。そろそろ夏の計画などを立てている頃でしょうか。

7月は4年ぶりに通常開催で行う夏まつりを計画しています。普段とは違った園の雰囲気の中で、お家の方と一緒に子どもたちを楽しんでもらえるよう、とても気合が入ります。スペースの関係上、参加者の制限をお願いしましたが、ご理解ご協力をいただきましてありがとうございます。コロナの第9波が始まったと言われてはいますが、通常の保育を保ちながら感染対策を今一度見直し留意していきたいと思ひます。また、ヘルパンギーナも急増しているようですので、ご家庭でもお子さんの体調管理をよろしくお願ひいたします。今月から水あそびの活動も始まります。皆元気で活動に参加し、暑い夏を楽しく乗り切っていきたいと思ひます。

もうじき七夕ですね。今年も園の廊下に大きな笹を飾ります。みんなのお願ひごとが届きますように！

0歳ひよこ組

お散歩や公園に行くことが増え、ベビーカーに乗ると景色を見ながら心地よさそうなひよこ組さん。戸外では砂や石に夢中です。様々な形の石を手にとって、「お！」と嬉しそうに見せてくれたり、石と石をカチカチ合わせて音を出して楽しんでます。お砂場では両手で砂を掴んで何度もにぎにぎと握ったり放したり、スコップをザクザクと感触を楽しみながら遊んでいます。戸外に出た日は、給食の時間に眠そうな姿も見られますが、しっかりご飯は食べ、布団に入るとすぐに眠りについてます。汗をかく時期なので、こまめに水分補給をしながら、無理なく過ごしていきたいと思ひます。



1歳うさぎ組

6月は雨が多く室内で過ごす日が続きました。みんなが大好きな「サンサン体操」をはじめ、色々な体操を覚えて楽しんだり、ひとり一人がお気に入りの玩具を見つけ、集中して遊び、楽しく過ごしました。生活面では、自分のマークを見て、自分の帽子や靴下を取ったり、自分のおしぼりを取ったりと、色々な面で成長を感じます。7月は七夕や夏まつりなどの行事に加えて、水あそびが始まります。夏を感じながら楽しく多くの経験ができるように準備をしていこうと思ひます。気温も上がりたくさん汗をかくと思ひますので、ロッカーに多めの着脱しやすい着替えのストックをご準備ください。



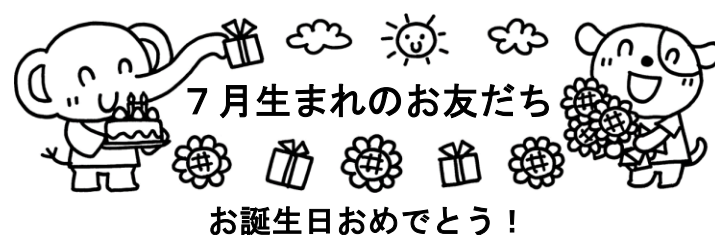
2歳りす組

じめじめとした日が続いていますが、汗をいっぱいかきながらも夢中で遊ぶりす組さん。最近はお友だちと一緒に遊ぶことが楽しい様子で、役を決めておままごとをしたり、店員さんとお客さんに分かれてお買い物ごっこをしたりと、言葉でやり取りをしながら遊ぶ姿がたくさん見られるようになってきました。また、お友だちと手を繋ぐことに慣れていけるような遊びを取り入れたり、身の回りのことに興味を持てるような絵本を読んだりする中で、出来ることが少しずつ増えています。今後もご家庭と連携を取りながら成長を見守っていききたいと思ひます。これからの季節、暑さが増していきますので、こまめな水分補給と体調面に十分配慮していきたいと思ひます。また、着脱しやすい着替えのストックのご用意をお願いいたします。

7月の予定

7日(金)	七夕の会
8日(土)	夏まつり
11日(火)	避難訓練
12日(水)	お誕生会
24日(月) 25日(火)	身体測定

日程変更の際は事前にお知らせいたします。



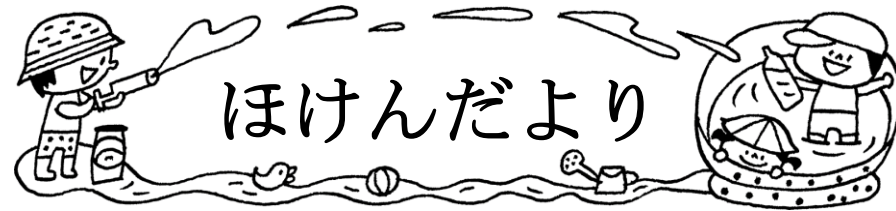
7月生まれのお友だち

お誕生日おめでとう！

7月の歌

トマト
みずあそび
おばけなんてないさ





暑い夏を元気に乗り切りましょう！

汗を分泌する汗腺の数は、大人も子どもも同じですが、子どもは汗腺の密度が高く、汗をかきやすいです。汗は体温を下げる一方、あせもなどの皮膚トラブルのもとになります。暑さと汗、両方の対策が大切です。

**子どもは大人より体温が上がりやすく、汗をたくさんかきます。
毎日着る服をちょっと工夫して、夏を快適に過ごせるようにしてあげましょう。**

シャツ

襟ぐりや袖口がゆったりしていると風通しがよく涼しく感じられます。汗をよく吸う綿や、速乾性のある素材のものがお勧めです。暑くて肌着を嫌がるときはやわらかいシャツを着せてあげましょう。

ズボン

普段は涼しい半ズボンでレジャーなどで虫刺されを防ぐためには長ズボン、といった具合に、場面に合わせて選んであげましょう。

帽子

頭部に直射日光が当たると、めまいや吐き気が起こります。外出するときは、帽子をかぶらせましょう。うなじまでカバーできるのが理想的です。



靴

大人はサンダルの方が涼しくてよいと考えがちですが子どもの足は未熟で骨もやわらかい状態。思いきり遊ぶためには足に合った運動靴をはくことが大切です。

熱中症とは

気温、湿度が高い環境で、体の水分や塩分のバランスが崩れたり、汗がでなくなることで、体温調節ができなくなるために起こります。また、突然の気温上昇や、梅雨時の蒸し暑い日など、体が暑さに慣れていない時に起こりやすく、乳幼児は特に注意が必要です。

この夏も元気に楽しい夏を過ごしましょう！



夏に多い感染症

ヘルパンギーナ

夏によくかかるウイルス性の夏風邪の一種です。喉の痛みを伴う、39℃以上の高熱が2～4日続きます。喉の奥が赤くなり、小さな水泡や潰瘍が見られるのがこの病気の特徴です。下痢や嘔吐などの症状が出ることもあります。高熱が出るため、脱水症状や熱性痙攣をおこすこともあります。水分補給をしっかり行うことも大切です。症状が軽ければ1～4日くらいで熱は治まります。

手足口病

主に乳幼児の間で流行するウイルス性の夏風邪の一種で、飛沫感染します。手足や口の中に水泡や赤い湿疹が出るのが特徴で、膝やお尻に出ることもあります。症状は3～5日で治まりますが、その後も2～4週間は便からウイルスが出るので、周囲の人に感染しないように注意しましょう。ウイルス性の風邪のため、抗生物質は無効で、自宅療養での自然治癒を待ちますが、発熱や嘔吐がある場合は症状を緩和する薬が処方されます。

プール熱

夏風邪の一種で感染力が強く、唾液や鼻水、目やに、便などが感染源でプールの中で水を介して感染するケースが多いようです。39℃以上の高熱、喉の痛み、体のだるさ、結膜炎といった症状の他に、頭痛、腹痛、下痢などの症状が出ることもあります。感染した場合は学校保健法により休むことが義務付けられています。症状が治まっても2週間くらいはプールに入るのはやめましょう。プールの前後はしっかりとシャワーを浴び、できればうがいを行うのが一番の予防です。

流行性角結膜炎

アデノウイルスの感染でおこる、結膜炎の中でも一番典型的な病気で、1～5歳によく見られます。潜伏期間が8～14日と長く、目の充血、多くの目やに、涙に加え、リンパ節の腫れや痛みなどを伴います。感染力が強いので発症したら医師の指示に従い、許可を得てから登園しましょう。症状は発症してから1週間くらいがピークですが完治には2～3週間かかります。感染力の強さから、タオル、ティッシュ、洗面器など、顔に触れる物の共有は控えましょう。

夏風邪はどれも特効薬はないといえます。休むことが一番の薬だそうです。

登園の目安は医師の判断がくだりお子さんの全身状態が良好で、食事も問題なく摂れること。そして、集団生活に適応できるまでに回復してからということが重要です。登園の際は病気の種類によって「登園届」または「意見書」を必ずご持参ください。提出がないとお子さんをお預かりすることができませんので、ご注意ください。

* やむを得ず保育が必要となった場合は、市内病児保育室をご利用いただくことが出来ます。詳細は「病児保育室のご案内」をご参照ください。